

高齢者施設の皆様向け

本庄保健所 結核だより

令和7年度9月発行
本庄保健所 保健予防推進担当
(感染症担当)
TEL: 0495-22-6481

各高齢者施設の皆様には、日頃、当所の感染症対策に御理解、御協力をいただき、誠にありがとうございます。

毎年9月24日～9月30日に定められている

『**結核・呼吸器感染症予防週間**』に合わせて、最近の結核の動向や本庄保健所管内における情報をお知らせしたく、「結核だより」を作成いたしました。

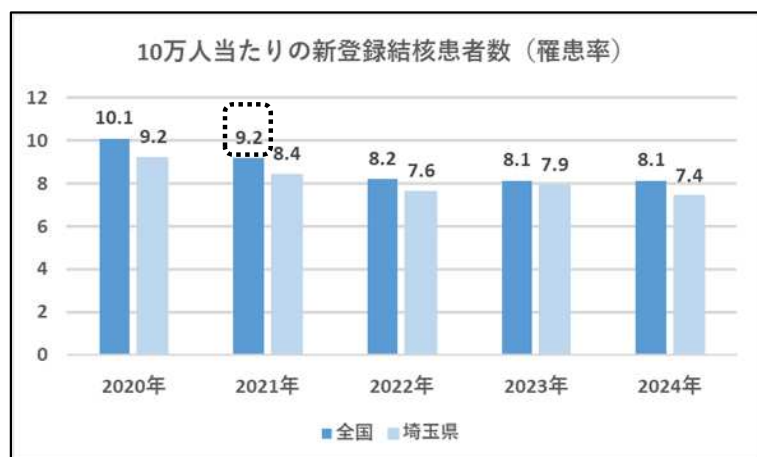
改めて『結核』という病気について振り返り、意識していただく機会になればと思っています。



公益財団法人結核予防会ポスター

最近の結核発生動向について

2021年には、人口10万対の年間新登録結核患者数（罹患率）が初めて10未満となり、ようやく日本も**低蔓延国**の仲間入りを果たしました。2024年も全国では罹患率8.1と、低蔓延状態を維持しています。



結核は低蔓延状態となったこともあり、『昔の病気』と思われがちですが、

今でも毎年1万人以上の新しい患者が

発生している日本の主要な感染症の一つです。

新登録患者数及び、罹患率の減少については、新型コロナウイルス感染症の影響も考え、今後の動向を注視していく必要があると言われていますが、先進国の水準に年々近づき、近隣アジア諸国に比べても低い水準になっています。



結核について特に注目していただきたいこと

①新規結核患者は、高齢者に多い！

現在の特徴の一つとして、新規結核患者のうち高齢者の占める割合が高いことが挙げられます。

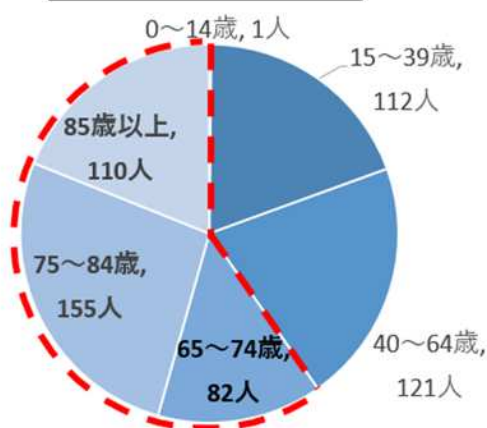
高齢者は何十年も前、結核が現在よりも蔓延していた時代に感染し、高齢や疾病による免疫力低下に伴って結核を発症する場合があります。

過去の感染をなくすことはできませんが、万が一、発症した際、早期に発見し、治療に結びつけられることができれば、重症化予防だけでなく、更なる感染拡大防止につながります。

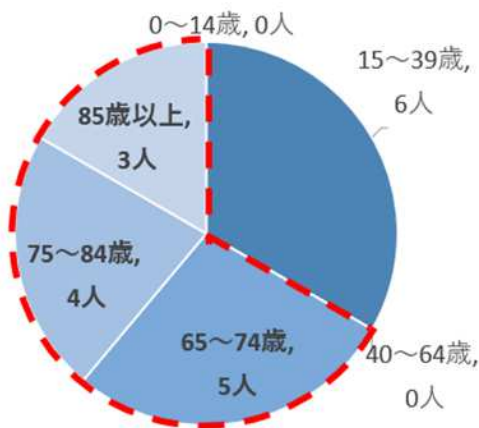
2023年 新登録活動性結核患者数（年齢別）

【埼玉県】 N = 581

※政令指定都市を含む



【本庄保健所管内】 N = 18



全体の約6割を
65歳以上の高齢者が
占めています。



コバトン

*結核の症状（長引く咳、たん、微熱、体のだるさなど）には特徴的なものがなく、初期は目立たないことが多いです。特に、高齢者では呼吸器症状が現れず、食欲不振や体重減少等が主な症状である場合も少なくありません。そして、気づかいうちに進行してしまうことがあります。体温・血圧等の数値だけではなく、「なんだか調子が悪そう」「痩せてきている」等日頃の様子と違う状態にもご注意いただき、是非、症状が長く続く場合には結核の可能性も考えて受診や胸部エックス線検査の実施を考慮していただけたらと思います。

*また、毎年お願いしておりますが、特定の事業者等には、結核に係る定期の健康診断を行うことが義務付けられており（感染症法第53条の2）、その結果は、保健所への報告が必要となります（同法第53条の7）。御対応についてよろしくお願いいたします。

***結核対策や感染症対策において、高齢者施設の皆様にも知っていただくことは非常に重要だと考えています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。**

